

「病気になってしまった人の気持ちを元気にするには」

～6月26日（金）放送での校長先生のお話～

緑野小学校のみなさんおはようございます。いよいよ、来週の月曜日からは通常登校が始まりますね。全学年のお友達が学校に来ることになります。校長先生もとても楽しみです。

今日は「病気になってしまった人の気持ちを元気にするには」というお話をします。

今、新型コロナウイルスが世界中に広がっています。日本では感染する人が少なくなったため、学校も再開することになりましたね。でも、病気は新型コロナウイルスだけではありません。皆さんがよく知っている風邪、インフルエンザなど、そのほかにもたくさんの病気があります。そして世の中には、いろいろな病気にかかっている大人や子供が大勢います。体の病気だけでなく、心の病気になっている大人も子供もいます。そして、お医者さんからもらった薬が効く病気もあれば、薬が効かない病気もあります。

さて、そのような人たちは、自分になりたくて病気になったのでしょうか。みなさんだったら、体や心の病気にかかりたいと思いますか？だれだって病気にはかかりたくないですね。でももし、病気にかかってしまったら、学校をお休みしなくてはならないかもしれません。では、学校を休んでいるお友達のつらい気持ちを考えたら、どんな言葉をかけてあげるのがよいのでしょうか。

校長先生だったら「どんな病気なの？」「なんで病気になったの？」「いつになったら学校に来るの？」こんなふうに言われたら、悲しくなります。でも「早く治して元気になってね。」「つらいけど、病気に負けないで、がんばって。」と言われたら嬉しいです。そして、自分でも病気を治そうという前向きな気持ちになります。もしかしたら、人によっては病気のこととは何も言わないで、そっとしておいてほしいと思うかもしれません。

これからの学校生活で、もし病気にかかってしまったお友達がいたら、その人の気持ちをよく考えて、言葉をかけたり行動したりしてください。それが、病気になった人の気持ちを元気にすることにつながるからです。

ではこれで、校長先生のお話を終わります。